

相模原市・津久井郡 4 町等広域行政連絡会議

市町村合併に関する調査研究部会中間報告

平成 1 5 年 1 0 月

相模原市・城山町・津久井町・相模湖町・藤野町

相模原市・津久井郡 4 町等広域行政連絡会議

市町村合併に関する調査研究部会中間報告

1 . 相模原市・津久井郡 4 町の現況	1
(1) 位置・地勢	1
本地域の面積	
(2) 沿革	4
(3) 水源(湖沼)の状況	6
津久井地域における水資源開発の歴史	6
水源地域における水資源開発の歴史	
神奈川県の水源地域としての広域的な役割	9
水源環境保全のための取り組み	11
(4) 人口	13
人口動向	13
人口の推移	
男女別人口	
世帯総数の推移	
年齢 3 区分別人口の推移	
年齢 3 区分別人口の割合の推移	
高齢者世帯の推移	
将来の人口	20
将来人口(65歳以上人口)と高齢化率	
(5) 面積	21
総面積等	
目的別土地利用状況	
都市計画区域等の面積	
(6) 日常生活圏の状況	24
通勤通学動向の推移	
利用交通手段の状況	
2 . 相模原市・津久井郡 4 町の位置付け等	29
(1) 「かながわ新総合計画 2 1」における位置付け	29
(2) 「第 3 次新津久井地域広域市町村圏計画」における位置付け	29
(3) 相模原市・津久井郡 4 町の総合計画の概要	29
3 . 産業の状況	31
(1) 産業構造	31
産業別就業者数とその割合の推移	

産業中分類別就業者数とその割合	
(2) 第 1 次産業	3 4
農業の状況	
年代別農家世帯員数	
農業粗生産額	
市民農園の開設状況	
1 区画あたりの農園面積	
林家数	
(3) 第 2 次産業	3 7
工業の推移	
(4) 第 3 次産業	3 9
商業の推移	
観光の状況	
観光農園の状況	
主な観光資源	
主な文化財	
4 . 公共施設・社会基盤の整備状況	4 5
(1) 道路	4 5
国県道の状況	
市町道の状況	
(2) 鉄道・バス	4 9
鉄道の状況	
バスの状況	
(3) 上下水道	5 1
上水道	5 1
上水道整備状況	
下水道	5 2
下水道整備の状況	
生活排水処理の状況	
(4) ごみ収集・処理、し尿処理	5 9
ごみの収集状況	
一般廃棄物処理施設の整備状況	
ごみ処理の状況	
し尿処理の状況	
一般廃棄物処理の状況（各市町別）	
(5) 医療・保健・福祉施設	6 7
高齢者福祉施設の状況	
身体障害者援護施設の状況	
知的障害者援護施設の状況	

精神障害者施設の状況	
その他の関連施設の状況	
医療施設・病院等の状況	
医療施設・医師等の状況	
医療施設・病床数等の状況	
児童福祉施設の状況	
老人保健事業	
要介護者の状況	
要介護者等サービス利用者数	
介護サービス	
(6) 文化教育	74
1 園(校)当りの園児数・児童数・生徒数の状況	
幼稚園の園数・園児数・教職員数の状況	
小学校の学校数・児童数・教職員数の状況	
中学校の学校数・生徒数・教職員数の状況	
高等学校	
大学等	
(7) 交流・スポーツ施設	81
交流・スポーツ施設の現況	
(8) 公園	82
公園の状況	
(9) 消防・防災	84
消防本部・消防団等の状況	
防災行政無線の状況	
5 . 行財政の状況	86
(1) 行政組織等	86
部門別職員数	
平均年齢・給与等の状況	
行政機構図	
職種別職員数	
地位別職員数(一般行政職)	
行政委員会の状況	
(2) 財政	98
決算の状況(普通会計)	
決算の状況(特別会計)	
平成15年度当初予算の状況	
住民1人当り予算額	
(3) 税務	110
税務の状況	

(4) 保険料・保育料	1 1 1
介護保険料の状況	
保育料の状況	
(5) 議会	1 1 3
議会の状況	
(6) 広域行政	1 1 5
神奈川県における広域行政	1 1 5
1市4町における広域行政	1 1 6
一部事務組合・協議会等の設置・加入状況	1 1 9
一部事務組合・協議会等の設置・加入状況	
津久井郡広域行政組合	1 2 0
職員数、平均年齢・給与等の状況	
収集区分	
焼却施設	
不燃物処理施設	
総排出量	
ごみ処理経費	
し尿処理実績	
し尿処理経費	
急病診療の状況	
相模湖モーターボート競走組合	1 2 4
相模湖モーターボート競走組合の概要	
職員数の推移	
収益及び4町への繰出金の状況	
(7) 公営企業会計・第3セクター	1 2 5
公営企業等設置状況	
土地開発公社の設置状況	
民法法人の設置状況	
商法法人の設置状況	
(8) 財産区	1 2 8
各町の財産区の状況	
(9) 地域指定	1 3 1
主な地域指定	
主な国県の各種機関の所管区域等の状況	
警察署の所管区域等の状況	

報告書の利用にあたって

1. この報告書には、相模原市、城山町、津久井町、相模湖町及び藤野町の1市4町における主な分野に関する統計データを掲載しています。

統計データは、各市町が国、県等に報告した各種統計資料及び各市町が独自に集計している統計資料から掲載しています。

また、原則として平成14年度中の事実を中心に、できる限り最近の状況を掲載するように努めました。

2. 統計データのうち、特に頭注等にことわりのない限り、「何年」とあるものは暦年間（1月から12月まで）、「何年度」とあるものは会計年度間（4月から翌年3月まで）の事実を示し、「何年末」、「何月末」あるいは「何年何月何日」とあるのはその期日の現在の事実を示します。

3. 統計データの一般的説明は頭注とし、表中説明を要する個々の事実は原則として脚注にしました。

なお、統計データの出典は各表ごとに欄外に掲げてあります。

4. 一部の統計データについては、単位未満の数字を四捨五入してあるため、必ずしも「計」に一致しない場合があります。

5. 統計データの表中の符号の用法は次のとおりです。

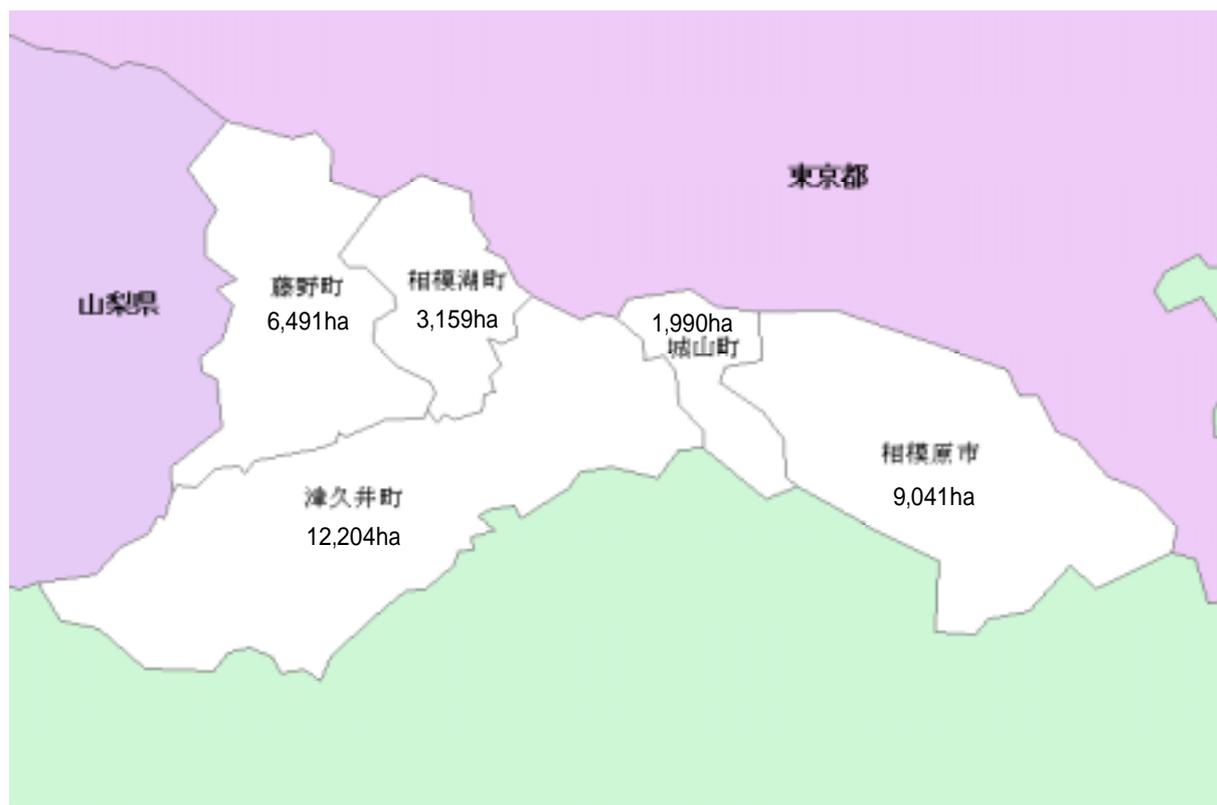
「0」	表章単位に満たないもの
「-」	皆無もしくは該当数値のないもの
「...」	数値が得られないもの
「 」	比較減を表すもの

1 相模原市・津久井郡 4 町の現況

(1) 位置・地勢

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町、藤野町の 1 市 4 町からなる本地域は、神奈川県
の北部に位置し、北部は東京都、西部は山梨県と接しています。

全体の面積は、32,885ha となり、神奈川県の総面積の約 13.6% を占めています。



【位置図】

【本地域の面積】

(単位: ha)

区分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合計
面積	9,041	1,990	12,204	3,159	6,491	32,885
面積比 (%)	27.5	6.1	37.1	9.6	19.7	100.0

資料：県勢要覧〔平成 14 年度版〕(神奈川県企画部統計課)

相模原市

相模原市は、東部は大和市、座間市、北部は境川を挟んで東京都町田市、西部は城山町、南部は相模川を挟んで愛川町の3市2町と接しています。

地形的には、西に丹沢の山々を臨み、相模川の左岸に南北に細長く広がる相模原台地の北半分に位置しています。

相模原台地は、相模川に沿った3つの河岸段丘からなるのが特徴で、高い方から相模原段丘（上段）、田名原段丘（中段）、陽原段丘（下段）と呼ばれ、なだらかな階段状になっています。これらの台地の間には、斜面緑地があり、相模川とともに、相模原市の水と緑の骨格を形成しています。

相模原市は、大部分が平らな台地であるという地形上の特性から、住宅用地、商業用地、工業用地としての利用に適しており、また、首都東京から約40kmに位置することから、首都圏の拡大に伴い、急速な都市化が進み発展してきました。

現在、市域の約7割が市街化区域になっており、その多くが住宅地として利用されています。

市内の人口は、小田急線沿線やJR横浜線沿線に集中してきましたが、京王線の橋本駅乗り入れや、JR相模線沿線の宅地化などに伴い、住宅地が市全域に広がり始めています。

城山町

城山町は、東部は相模原市、北部は東京都八王子市及び町田市、西部は津久井湖を挟んで津久井町、南部は愛川町の3市2町と接しています。

地形的には、相模川沿いに続く平坦な相模原台地から山間部に入る地帯に位置しています。東部は相模原市から続く平坦部として宅地化が進んでいます。中央部から南西部にかけて相模川が流れ、城山ダムにせき止められた津久井湖があり、南部は丹沢山系、北部は高尾山系に連なる山々や丘陵があり、また、北部には、水力発電を行うために造られた城山湖があります。

城山町は、貴重な水源を担う津久井の玄関口にあり、相模原台地と相模川、丹沢山系などが織り成す起伏に富んだ自然に恵まれており、こうした自然と都市との調和のとれた住環境を持ち合わせています。

津久井町

津久井町は、東部は城山町、北部は東京都八王子市、また、道志川を挟んで相模湖町及び藤野町、西部は山梨県道志村、南西部は丹沢山地を隔て山北町、東南部は愛川町及び清川村の1市5町2村に接しています。

地形的には、北東部は市街地が形成され、その周辺には優良な農地が展開し、これを取り巻いて津久井湖と緩やかな丘陵地が広がっています。北部には、町境に沿って道志川が、また南部には、串川がそれぞれ東西に流れ、その流域に緑豊かな街並みが形成されています。南西部には、丹沢大山国定公園に指定されている森林地帯があり、主峰蛭ヶ岳（1,673m）を中心に丹沢山、檜洞丸といった1,500mを超える山々が連なっています。

津久井町は、津久井湖、奥相模湖、宮ヶ瀬湖の3つの湖に恵まれ、これを道志導水路と津久井導水路により結び、水の総合運用が行われ、水源供給基地を形成しています。

また、美しい川の流れと緩やかな里山、丘陵地、雄大な丹沢山地の緑に恵まれた、首都圏において貴重な自然を有する水源の都市となっています。

■相模湖町

相模湖町は、神奈川県の北西に位置し、北東部は影信山、小仏峠などの分水嶺を境に東京都八王子市、東部から南端にかけては道志川を隔てて津久井町、西部は石老山系の山並みを境に藤野町の1市2町と接しています。

地形的には、町のほぼ中央を相模川が東流し、そこに県民の水がめ「相模湖」があり、町を南北に二分する形になっています。

首都東京から60km圏、横浜市からは50km圏と、都市近傍にあり大変立地的に恵まれた地点に位置しています。住宅や農地は、相模湖町と津久井町の境界を流れる道志川の河岸段丘上に集中しており、豊かな自然環境の中で、バランスのとれた産業や生活が営まれています。

■藤野町

藤野町は、神奈川県の最北西端に位置し、東部は相模湖町、北部は東京都八王子市及び檜原村、西部は山梨県上野原町、秋山村及び道志村と、南部は道志川を境に津久井町の1市3町3村に接しています。

地形的には、南北に長い長方形を成しており、北部には、町内最高峰の連行峰(1,020m)をはじめ、生藤山(990m)、陣馬山(855m)など比較的急峻な山々が連なり、東京都と山梨県との境になっています。南部には、石老山、石砂山、峰山などの500~600mのなだらかな山々が連なり、津久井町との境に道志川が流れています。中央部には、東西に相模川が流れ、その両岸にやや開けた河岸段丘があって住居が集中しており、左岸には国道20号とJR中央本線、中央自動車道が東西に走り、まちの骨格を成しています。

また、戦中戦後、戦火を逃れた芸術家たちが「大芸術都市構想」を夢みたという歴史的経過などを踏まえ、都市生活の憩いの場、芸術家を育てる場、地域住民の交流の場として、「ふるさと芸術村構想」を掲げ、美しい自然を舞台にして、活力あるまちづくりを展開しています。

(2) 沿革

明治22年の市制町村制施行に伴う「明治の大合併」に始まり、昭和28年の町村合併促進法施行、昭和31年の新市町村建設促進法施行に伴う「昭和の大合併」を経て、現在に至るまでの各市町の沿革については、次のとおりとなっています。

■相模原市

年 月	沿 革
明治22年 4月	座間村、新磯村、麻溝村、田名村、溝村、大沢村、相原村、大野村が誕生
大正15年 1月	溝村が町制を施行し、上溝町が誕生
昭和12年12月	座間村が町制を施行し、座間町が誕生
昭和16年 4月	2町6村（座間町、上溝町、新磯村、麻溝村、田名村、大沢村、相原村、大野村）が合併し、相模原町が誕生
昭和23年 9月	座間町が分立
昭和29年11月	市制を施行し、相模原市が誕生
平成15年 4月	中核市の指定

資料：相模原市史

■城山町

年 月	沿 革
明治22年 4月	川尻村、湘南村、三沢村が誕生
昭和30年 4月	3村（川尻村、湘南村、三沢村の一部）が合併し、町制が施行され、城山町が誕生

資料：城山町史

■津久井町

年 月	沿 革
明治22年 4月	三沢村、中野村、太井村、又野村、三ヶ木村、青山村、根小屋村、長竹村、鳥屋村、青野原村、青根村が誕生
明治42年 5月	青山村、根小屋村、串川村の3村が合併し、串川村が誕生
大正14年 7月	中野村、太井村、又野村、三ヶ木村の4村が合併し、中野町が誕生
昭和30年 4月	1町5村（中野町、串川村、鳥屋村、青野原村、青根村、三沢村の一部）が合併し、津久井町が誕生

資料：津久井町史

■相模湖町

年 月	沿 革
明治22年 4月	小原町、内郷村、千木良村、与瀬駅が誕生
大正 2年 4月	与瀬駅が町制を施行し、与瀬町が誕生
昭和30年 1月	2町2村（小原町、与瀬町、内郷村、千木良村）が合併し、相模湖町が誕生

資料：相模湖町史

■藤野町

年 月	沿 革
明治22年 4月	吉野駅、小湊村、沢井村、日連村、名倉村、牧野村、佐野川村が誕生
大正 2年 4月	吉野駅が町制を施行し、吉野町が誕生
昭和29年 7月	吉野町、小湊村、沢井村が合併し、吉野町が誕生
昭和30年 7月	1町4村（吉野町、日連村、名倉村、牧野村、佐野川村）が合併し、藤野町が誕生

資料：藤野町史

(3) 水源 (湖沼) の状況

津久井地域における水資源開発の歴史

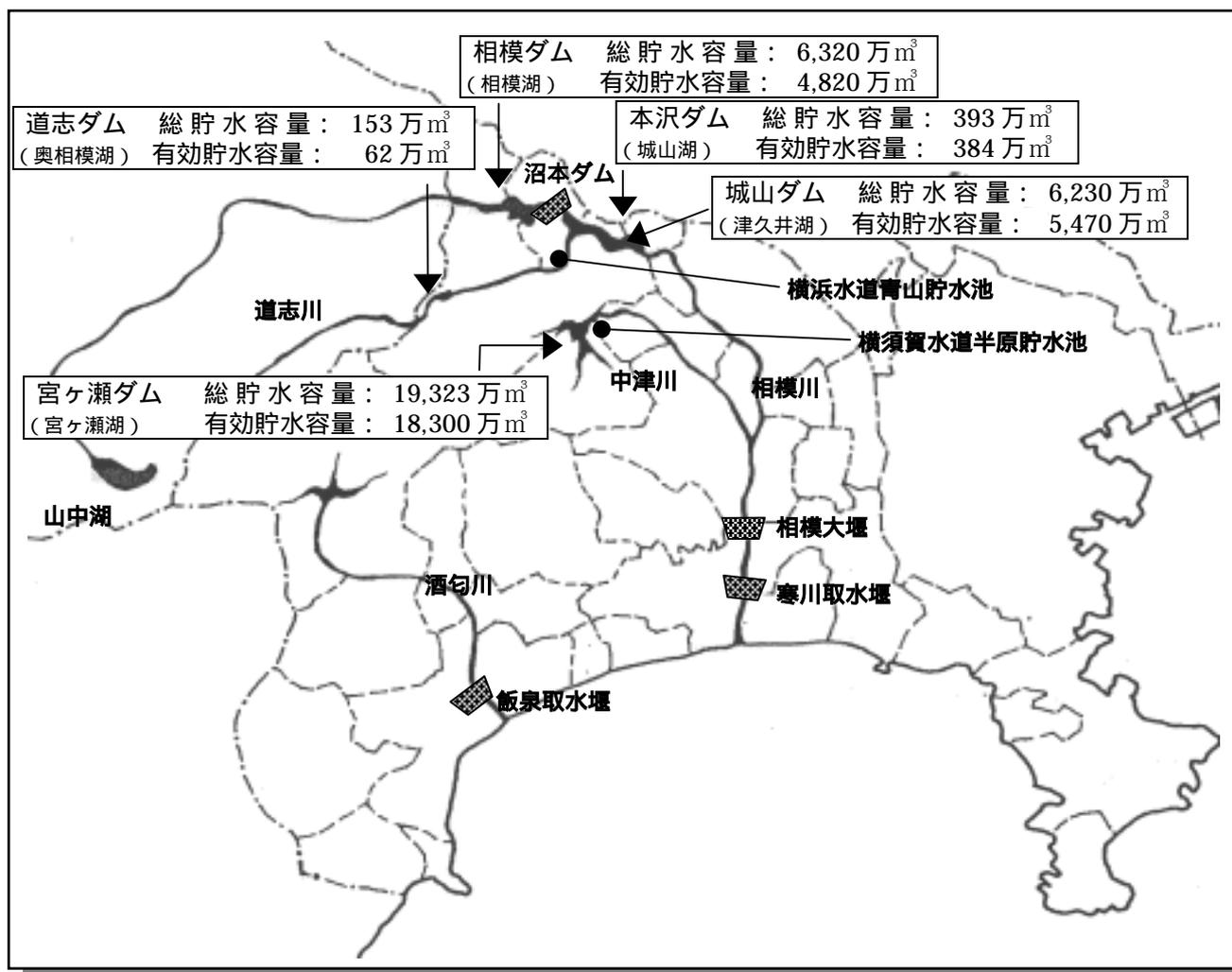
水源地域 (湖沼地域) における水資源開発は、水道水源を相模川 (道志川合流部・現津久井湖底) に求め、明治 2 0 年に送水が開始された横浜水道の敷設から始まりました。

以降、戦災復興、高度経済成長などによる水需要の増大を背景として、相模川河水統制事業による昭和 2 2 年の相模ダム (相模湖) ・津久井ダム (沼本調整池) の誕生を皮切りに、道志ダム (奥相模湖) ・城山ダム (津久井湖) ・宮ヶ瀬ダム (宮ヶ瀬湖) 等のダムが建設され、人造湖が誕生しました。

【水源地域における水資源開発の歴史】

時 代	内 容
明治の初期	相模川からの導水による、相模原一帯の水田化計画が持ち上がるが、技術・財政面から立ち消え
18 年	水源を相模川 (道志川合流点) に求め、日本初の近代水道「横浜水道」工事に着手
20 年	横浜水道完成、送水開始
28 年	相模川、道志川での発電計画浮上
30 年	横浜水道、水源を道志川に変更、新取水口を青山小瀬戸地区とした
大正 3 年	横浜水道、水源をさらに上流の鮑子平に変更、取水開始
5 年	横浜市が水源林として、道志村内の山林 2,781 h a を買収
昭和 9 年	相模川総合利用のための調査が始まる
15 年	相模川河水統制事業起工
22 年	相模ダム・津久井ダム完成、相模湖・沼本調整池が誕生
27 年	県企業庁発足、相模川総合開発計画の基礎調査が始まる
昭和 30 年	道志ダム完成、奥相模湖が誕生
36 年	相模川総合開発共同事業の運営を開始
37 年	相模川総合開発事業起工
39 年	寒川取水施設完成、酒匂川総合開発のための基礎調査が始まる
40 年	城山ダム・本沢ダム完成、津久井湖・城山湖が誕生
44 年	広域水道事業団発足、宮ヶ瀬ダム計画調査が始まる
50 年	相模川水系建設事業計画着手
52 年	宮ヶ瀬ダム計画決定
62 年	宮ヶ瀬ダム建設工事着手
平成 7 年	相模大堰 (社家取水施設) 完成
13 年	宮ヶ瀬ダム完成、宮ヶ瀬湖が誕生

【ダム等の位置と容量】



◆ 相模川河水統制事業

昭和13年に京浜地帯の人口の増加や工業の進展に伴う水道用水、工業用水及び電力需要の増大、相模原における水田開発などを背景に計画されたもので、相模ダム・津久井ダム等が整備されました。

この事業は、日本で最初の河川総合開発事業であるとともに、神奈川県が全国に先駆けて行った広域的な水資源開発事業であり、昭和22年に完成しました。

また、昭和27年には相模川河水統制第2次増強事業として、道志川上流に道志ダム（奥相模湖）・相模湖までの導水路をつくり、相模・津久井両発電所の出力増加と水道用水等を増強しました。

◆ 相模川総合開発事業

昭和30年代後半からの著しい水需要の増加に対処するため、神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市の共同事業として計画・実施されました。

相模ダムの下流に城山ダム(多目的ダム・津久井湖)を、下流の寒川に寒川取水堰を建設、また津久井湖北側(境川上流)に本沢ダムを建設、揚水発電を行っています。

昭和27年に調査開始、城山ダムは昭和36年に工事着手、同40年に完成、寒川取水堰は同39年に完成。

◆ 相模川高度利用事業

新たに上水道用水を取水するために神奈川県、横浜市、横須賀市の共同事業として計画・実施、寒川取水堰を増強したものの。

昭和40年に調査開始、同45年に着工、同47年に完成。

◆ 酒匂川総合開発事業

水需要の急激な増大に対し、相模川水系のみで供給量を確保することが困難となったため、酒匂川水系に水源を求め、河内川の山北町神尾田地先に多目的ダム(三保ダム)を、下流の小田原市飯泉に飯泉取水堰を建設しました。

この事業は、神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市による「神奈川県内広域水道企業団」により実施されました。

◆ 宮ヶ瀬ダム建設事業

「特定多目的ダム法」に基づく国土交通省の直轄事業として、洪水調節、流水の正常な機能の維持と増進、発電、水道用水確保を目的に計画・建設されたもの。

昭和52年に計画決定、昭和62年に本体建設工事が着工され、平成13年3月に完成。

有効貯水量は1億8,300万m³で、下流の相模大堰と寒川取水堰で神奈川県内広域水道企業団によって取水。神奈川県、横浜、川崎、横須賀の各水道事業者に供給されています。

神奈川県の水源地域としての広域的な役割

明治初期から行われてきた水資源開発により、津久井地域には7つのダム（相模ダム、沼本ダム、城山ダム、道志ダム、宮ヶ瀬ダム、本沢ダム、牧野取水ダム）と2つの導水路（道志導水路、津久井導水路）が建設されました。

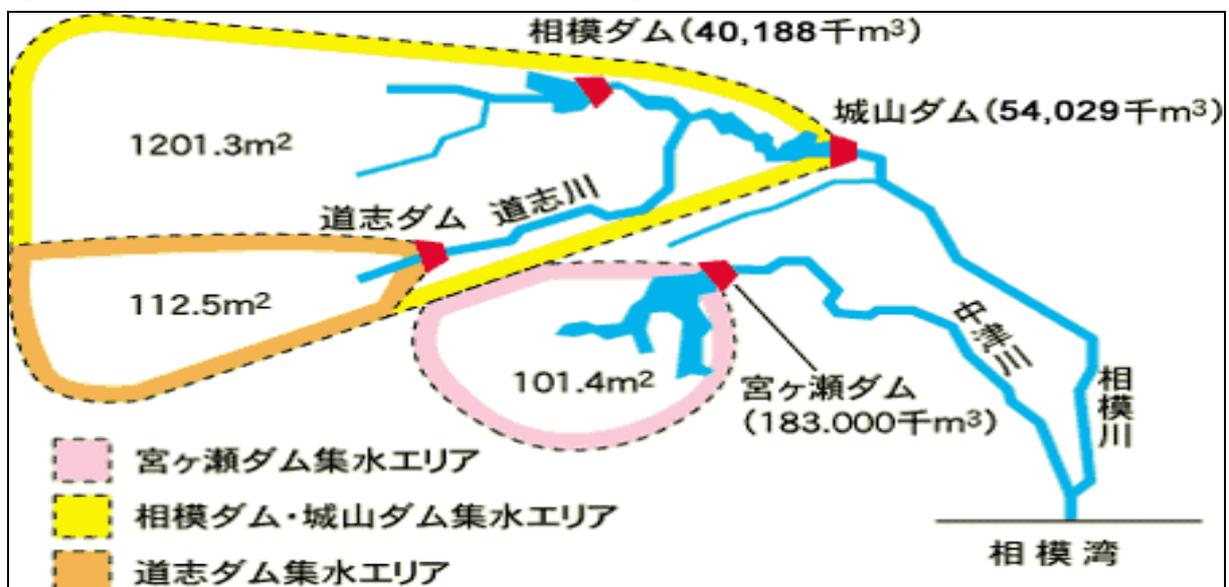
そして、集水面積が小さく流入量が少ない割に貯水容量が大きい「宮ヶ瀬ダム（宮ヶ瀬湖）」と集水面積が大きく流入量が多い割に貯水容量が小さい「相模ダム（相模湖）」及び「城山ダム（津久井湖）」の各々の特性を活かすために、これらのダムを道志川から宮ヶ瀬ダムへ水を流す「道志導水路」と宮ヶ瀬ダムから城山ダムの上流へ水を流す「津久井導水路」の2つの導水路が連絡し、総合運用を行うことにより、水資源の有効活用に取り組んできました。

こうした取り組みによって、上水道、工業用水道などの原水として有効な水利用形態を生み出し、神奈川県における水需要に対して安定した供給が可能になり、神奈川県民の生活の発展に大きく貢献してきました。

併せて、神奈川県全体の利水の健全性を確保していくことが求められることから、神奈川県民の水道水源となっている津久井地域では、広大な森林地域における涵養機能の確保、工場排水規制、生活排水対策など水源環境を保全する施策に取り組むことで広域的な役割を果たしてきました。

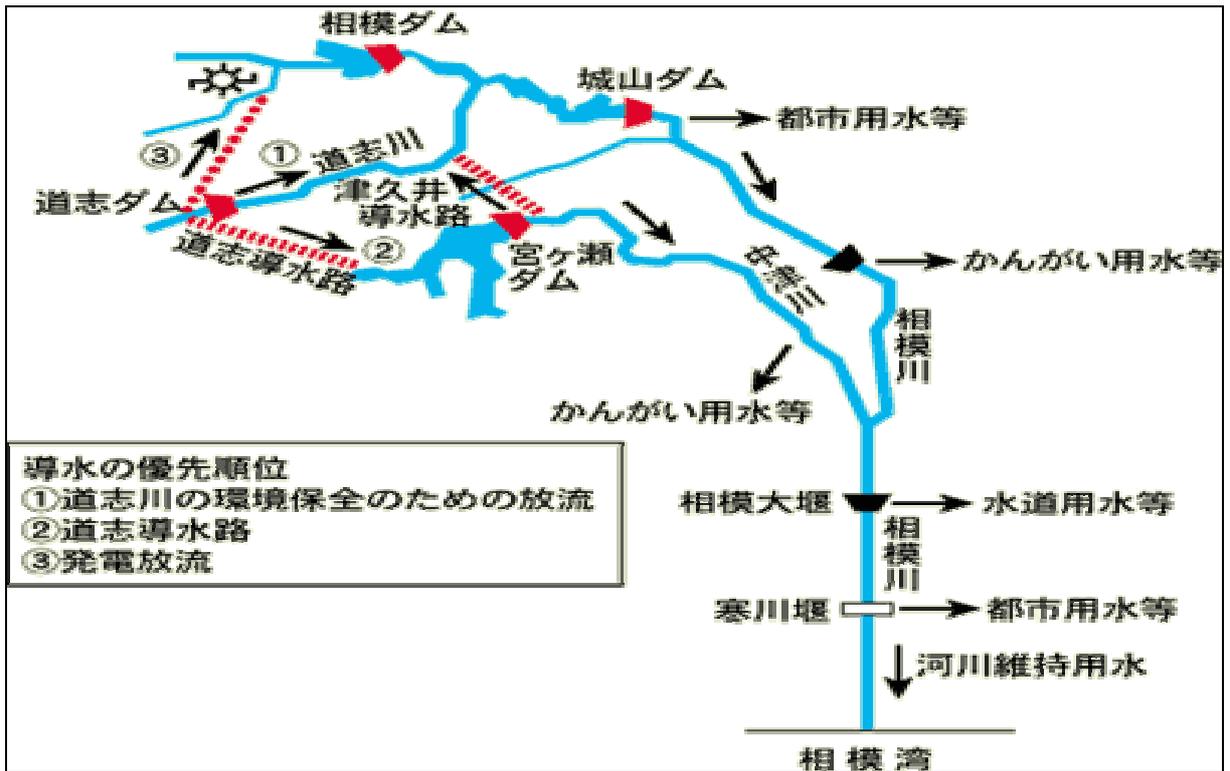
今後も、更なる県民生活の発展と利便性の向上に貢献していくために、津久井地域の水源地域を神奈川県における貴重な資産として、引続き水源環境を保全していくことが求められています。

【宮ヶ瀬ダム・相模ダム・城山ダムの集水エリア】



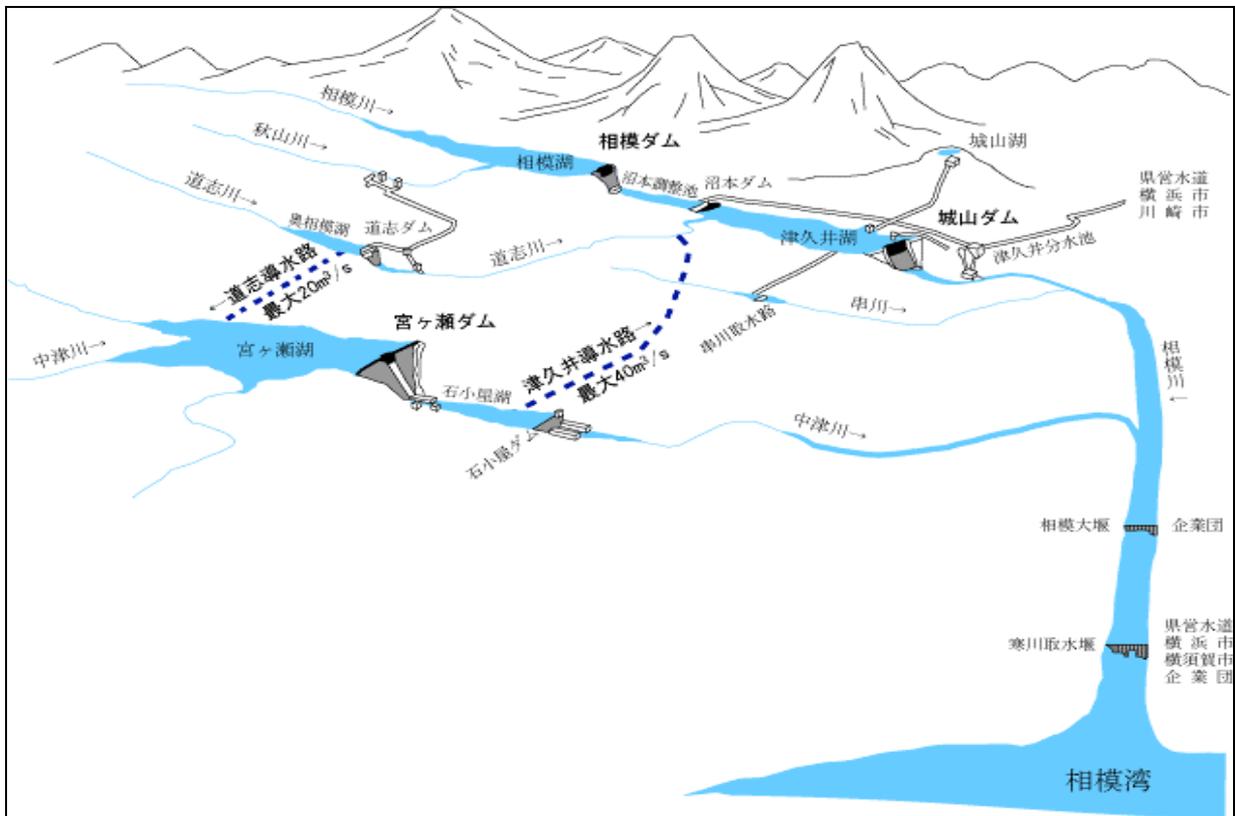
資料：国土交通省関東地方整備局相模川水系広域ダム管理事務所

【津久井導水路・道志導水路の状況】



資料：国土交通省関東地方整備局相模川水系広域ダム管理事務所

【相模・城山ダム、宮ヶ瀬ダム 総合運用概要図】



資料：神奈川県企業庁利水局ホームページ

水源環境保全のための取り組み

津久井地域における水源環境保全のための取り組みの概要については、次のとおりとなっています。

●相模湖・津久井湖の水質改善

相模湖・津久井湖一帯では、周辺および流入河川流域に住民のほとんどが居住しています。家庭排水や産業排水等については個別に対策がなされているものの道路側溝・小河川等を通じて湖に流れ込んでいるものも多いのが実状です。

このようなことから湖の富栄養化が進み毎年のようにアオコが発生、また全窒素、全リン等の水質環境基準値も高い数値を示しています。

流域住民や事業者の水環境保全に対する意識改革が求められています。

●湖岸斜面の崩落

津久井湖は洪水調整等多目的機能を備えているため、昼夜、また季節によって水位が大きく変化します。それに関連して湖岸斜面表層の崩落が発生しており、住民生活の安全確保及び湖の水質保全のための早急な対策が求められています。

このような中、これまでに次のような取り組みを進めてきました。

◆下水道整備の推進

水資源を保全し、かつ、快適な住民生活を支えていくため、生活排水処理対策が緊急な課題となっており、相模川流域下水道（城山町・津久井町・相模湖町・藤野町）により公共下水道整備を進めています。しかし、山間地が多く、現在の神奈川県流域下水道では対応できない地域も多いため、藤野町では、農業集落排水事業を行ったり、合併処理浄化槽設置への助成等（4町）により水質保全を図っています。

なお、流域下水道整備については、利水者（神奈川県・横浜市・川崎市・横須賀市）から管線建設負担金相当分の建設助成金をいただいています。

◆森林交付税創設促進活動

神奈川県の森林面積は県土の約40%におよび、そのほとんどが津久井地域にあります。

これらの森林は水源地域の涵養はもとより、多面的な機能を果たしており、それら森林の持つ公益的機能を保持するため、水源地域が連携し『森林交付税』の創設を国に対し働きかけるよう神奈川県に求めています。

また、藤野町議会は、同税の創設促進についての全国的な組織に加盟し活動しています。

◆（仮称）水源地域交付金制度の創設促進活動

良質で安定的な水資源を確保するためには、県民共通の財産である水源地域の森林・自然をはじめ、生活廃水対策等地域全体の環境保全が必要となります。

このための新たな財源として、地域住民・利水地住民の理解と協力を前提に、水源地域が連携し『（仮称）水源地域交付金制度』の創設を神奈川県に対し働きかけています。

◆中道志川トラスト運動の推進（津久井町）

相模川の支流、道志川（中道志、青野原地区）では、地域住民が中心となり神奈川県民に広く呼びかけ『中道志川トラスト協会』を設立、稚アユの放流や自然観察会、歴史探訪会、河川清掃等、アユと清流復活のためのさまざまな活動を手がかりに、水質保全と河川環境美化を進めています。

◆水源の森林づくり（神奈川県）

森林の持つ水源涵養機能などの維持向上を目指し、平成9年度から協定による森林整備の際の経費助成や一括借り上げ、また分収林、買取り等の制度により、水源地域の私有林の公的管理・支援を進めています。

◆流域環境保全行動の推進（流域住民、事業者、神奈川・山梨両県流域市町村、神奈川県、山梨県）

相模川では上流の山梨県の流域住民・事業者・行政が参加して、流域環境と水質の保全を目的に、「桂川・相模川流域協議会」を組織、上下流の住民・事業者・県・市町村が連携して、シンポジウムの開催や森林の整備、クリーンキャンペーン、自然観察会などの活動を行っています。

◆相模湖・津久井湖の水質浄化（神奈川県）

相模湖・津久井湖の富栄養化にともなう、アオコ発生を抑制する対策として、エアレーション装置を設置、湖水のばっ気循環を行っています。

◆水環境保全を目的とした法規制等（神奈川県）

『水質汚濁防止法第3条3項の規定による排水基準を定める条例』では、津久井湖・丹沢湖をはじめとする湖沼と流入河川を「水質保全湖沼等」とし、厳しい排水基準を設け、工場等の実質的な立地規制を行なっています。

また、『神奈川県生活環境の保全等に関する条例』では、有害物質の上水道取水源となる水域への排出および地下浸透の禁止等、水質汚濁防止には定めていない方法を加えて水質汚濁を防止しています。

(4) 人口

人口動向

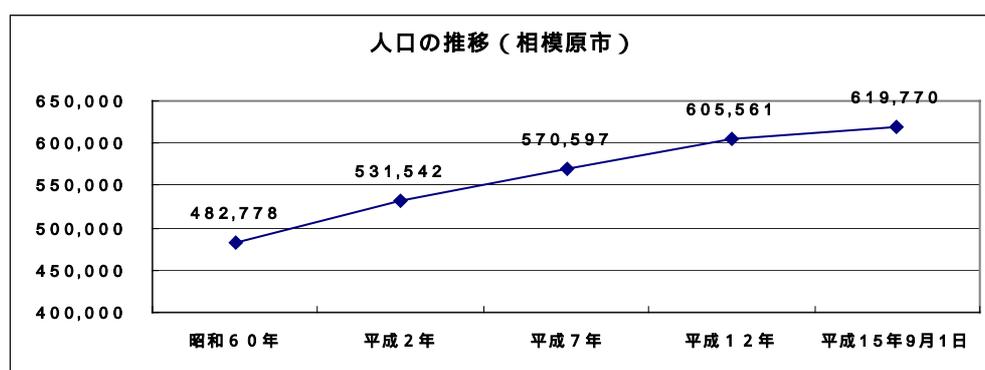
人口については、各市町ともに平成7年までは増加傾向にあり、相模原市、城山町は、緩やかになっているものの引き続き増加傾向にあります。一方、津久井町、相模湖町、藤野町は、平成7年からやや減少傾向に転じています。

【人口】(平成15年9月1日現在)

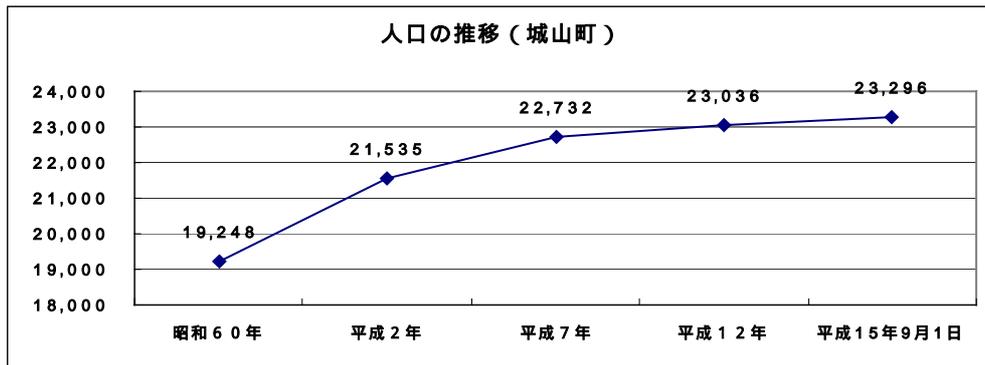


【人口の推移】

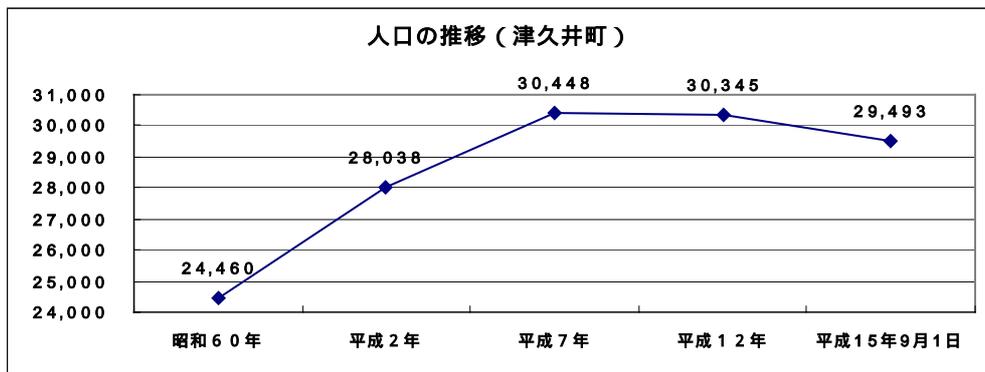
相模原市



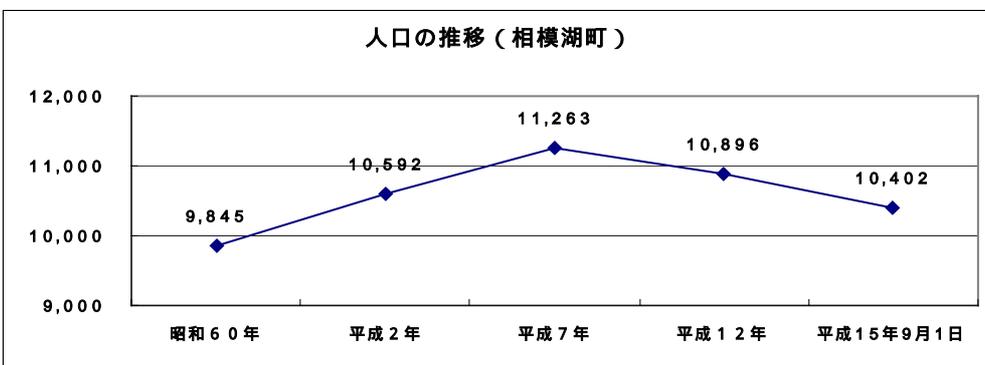
城山町



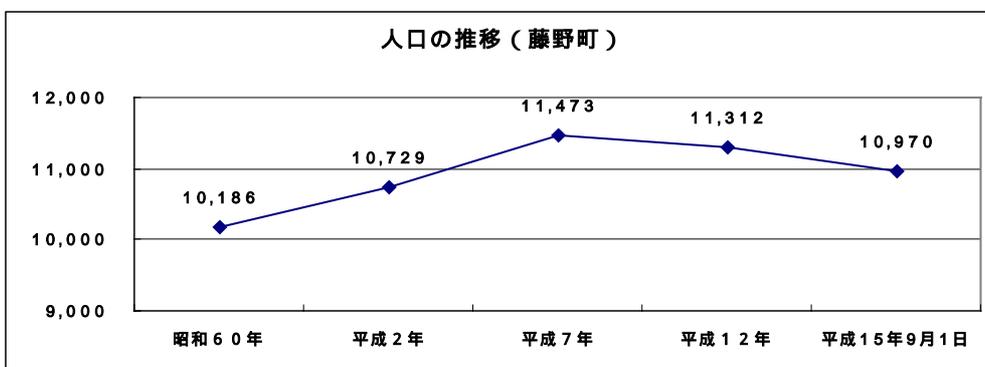
津久井町



相模湖町



藤野町



【人口の推移】

(単位:人)

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計
昭和60年	482,778	19,248	24,460	9,845	10,186	546,517
平成2年	531,542	21,535	28,038	10,592	10,729	602,436
平成7年	570,597	22,732	30,448	11,263	11,473	646,513
平成12年	605,561	23,036	30,345	10,896	11,312	681,150
平成15年9月1日	619,770	23,296	29,493	10,402	10,970	693,931

資料:昭和60年~平成12年は国勢調査(総務省統計局)、平成15年は各市町担当課

【男女別人口】

(単位:人)

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計	
平成12年	男	308,066	11,642	15,192	5,650	5,572	346,122
	女	297,495	11,394	15,153	5,246	5,740	335,028
	合計	605,561	23,036	30,345	10,896	11,312	681,150
平成15年 9月1日	男	314,623	11,699	14,757	5,384	5,409	351,872
	女	305,147	11,597	14,736	5,018	5,561	342,059
	合計	619,770	23,296	29,493	10,402	10,970	693,931

資料:平成12年は国勢調査(総務省統計局)、平成15年は各市町担当課

世帯については、相模湖町は、平成7年をピークに減少傾向に転じていますが、相模原市、城山町、津久井町、藤野町は、緩やかになっているものの引き続き増加傾向にあります。

【世帯総数の推移】

(単位:世帯)

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計
昭和60年	156,236	5,327	6,516	2,836	2,603	173,518
平成2年	187,413	6,355	7,813	3,346	2,886	207,813
平成7年	212,209	7,208	9,046	3,793	3,300	235,556
平成12年	237,936	7,663	9,492	3,712	3,392	262,195
平成15年9月1日	250,996	8,073	9,685	3,653	3,415	275,822

資料:昭和60年~平成12年は国勢調査(総務省統計局)、平成15年は各市町担当課

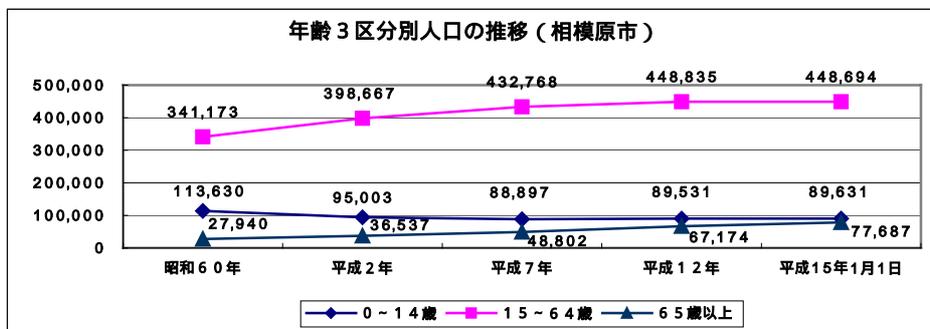
年齢3区分別（0歳～14歳、15歳～64歳、65歳以上）の人口については、各市町に共通した傾向として、65歳以上の人口（老年人口）が、昭和60年以降年々増加する傾向にあります。

0歳～14歳の人口（年少人口）については、津久井町、相模湖町、藤野町は減少する傾向にありますが、相模原市は、平成7年から増加する傾向にあります。城山町は、平成15年は平成12年に比べ微増となっています。

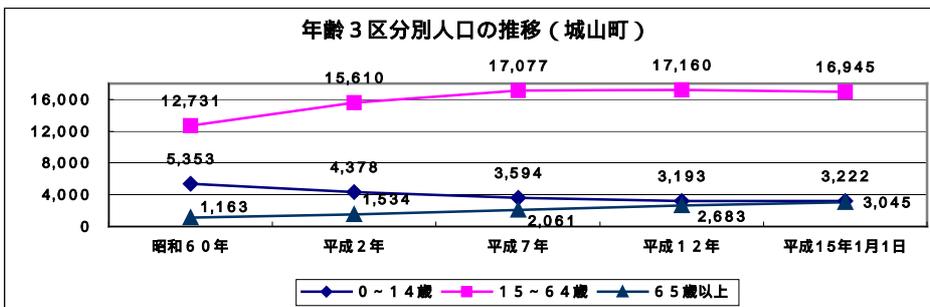
15歳～64歳の人口（生産年齢人口）については、各市町とも昭和60年以降増加する傾向にありましたが、相模湖町、藤野町は、平成12年から減少する傾向にあります。相模原市、城山町、津久井町は、平成12年に比べ、平成15年は減少しています。

【年齢3区分別人口の推移】

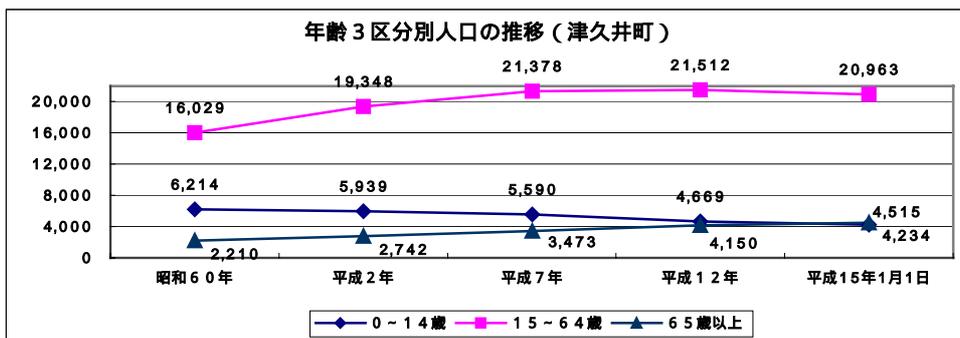
相模原市



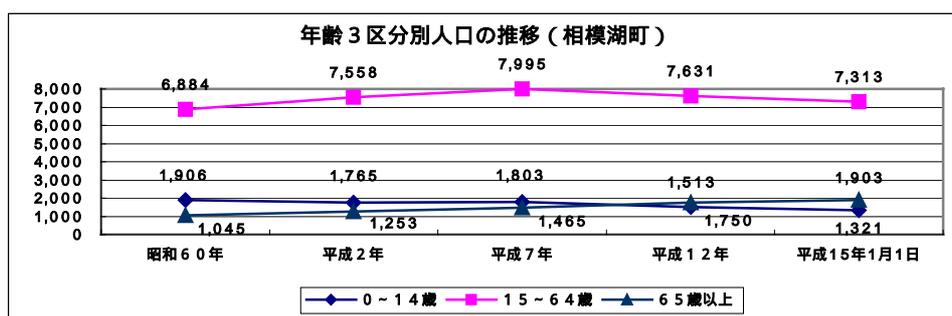
城山町



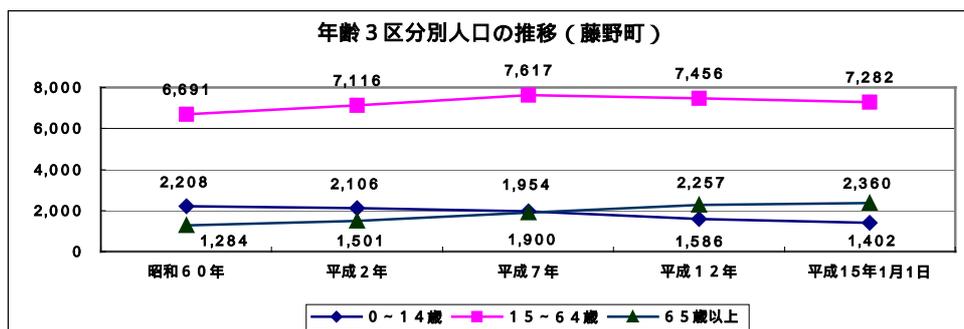
津久井町



相模湖町



藤野町



【年齢3区分別人口の推移】

（単位：人）

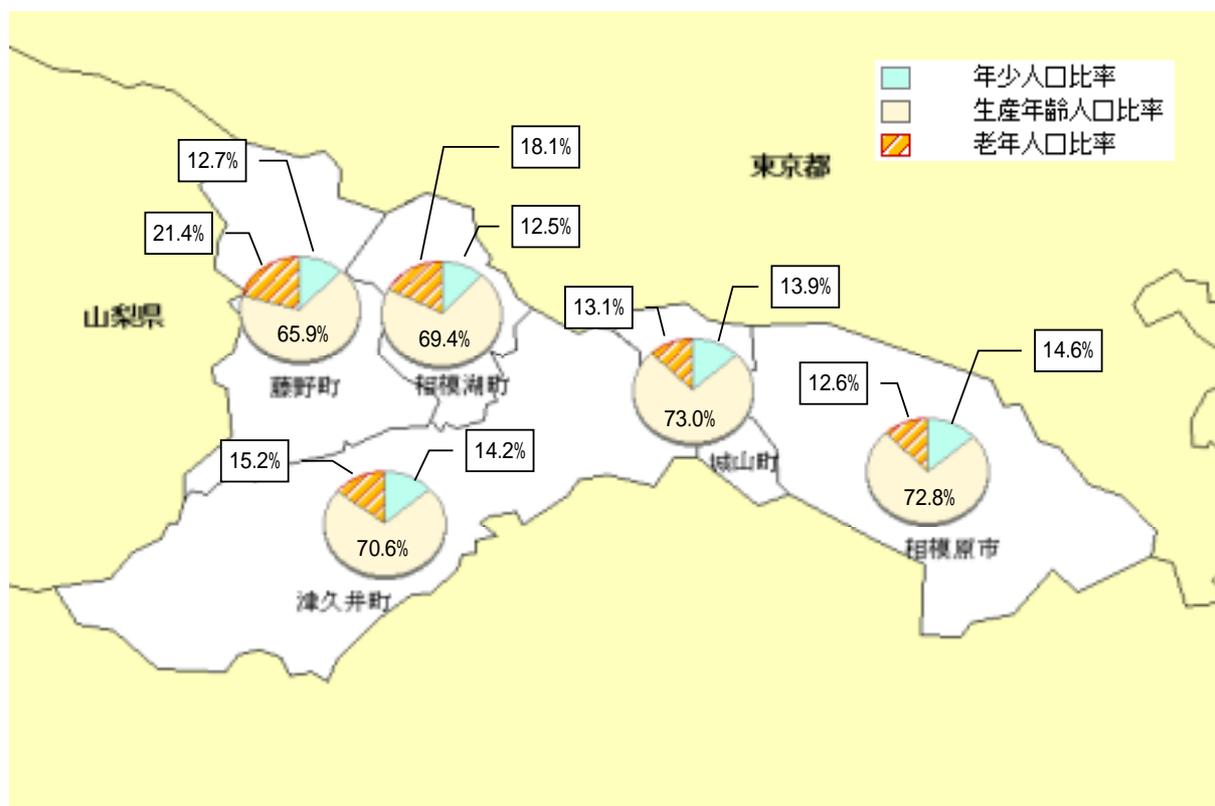
区	分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合計
昭和60年	0～14歳	113,630	5,353	6,214	1,906	2,208	129,311
	15～64歳	341,173	12,731	16,029	6,884	6,691	383,508
	65歳以上	27,940	1,163	2,210	1,045	1,284	33,642
平成2年	0～14歳	95,003	4,378	5,939	1,765	2,106	109,191
	15～64歳	398,667	15,610	19,348	7,558	7,116	448,299
	65歳以上	36,537	1,534	2,742	1,253	1,501	43,567
平成7年	0～14歳	88,897	3,594	5,590	1,803	1,954	101,838
	15～64歳	432,768	17,077	21,378	7,995	7,617	486,835
	65歳以上	48,802	2,061	3,473	1,465	1,900	57,701
平成12年	0～14歳	89,531	3,193	4,669	1,513	1,586	100,492
	15～64歳	448,835	17,160	21,512	7,631	7,456	502,594
	65歳以上	67,174	2,683	4,150	1,750	2,257	78,014
平成15年1月1日	0～14歳	89,631	3,222	4,234	1,321	1,402	99,810
	15～64歳	448,694	16,945	20,963	7,313	7,282	501,197
	65歳以上	77,687	3,045	4,515	1,903	2,360	89,510

資料：昭和60年～平成12年は国勢調査（総務省統計局）、平成15年1月1日は神奈川県年齢別人口統計調査結果（神奈川県企画部統計課）

（注1）平成15年1月1日は、年1回の調査基準日であり最新のデータとなる

（注2）年齢不詳を含めていないため、合計が総人口と一致しないケースもある。

【年齢3区分別人口割合】(平成15年1月1日現在)



【年齢3区分別人口の割合の推移】

区	分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合計
昭和60年	0~14歳	23.5%	27.8%	25.4%	19.4%	21.7%	23.7%
	15~64歳	70.7%	66.1%	65.5%	69.9%	65.7%	70.2%
	65歳以上	5.8%	6.0%	9.0%	10.6%	12.6%	6.1%
平成2年	0~14歳	17.9%	20.3%	21.2%	16.7%	19.6%	18.1%
	15~64歳	75.0%	72.5%	69.0%	71.4%	66.3%	74.4%
	65歳以上	6.9%	7.1%	9.8%	11.8%	14.0%	7.2%
平成7年	0~14歳	15.6%	15.8%	18.4%	16.0%	17.0%	15.8%
	15~64歳	75.8%	75.1%	70.2%	71.0%	66.4%	75.3%
	65歳以上	8.6%	9.1%	11.4%	13.0%	16.6%	8.9%
平成12年	0~14歳	14.8%	13.9%	15.4%	13.9%	14.0%	14.8%
	15~64歳	74.1%	74.5%	70.9%	70.0%	65.9%	73.8%
	65歳以上	11.1%	11.6%	13.7%	16.1%	20.0%	11.4%
平成15年 1月1日	0~14歳	14.6%	13.9%	14.2%	12.5%	12.7%	14.4%
	15~64歳	72.8%	73.0%	70.6%	69.4%	65.9%	72.6%
	65歳以上	12.6%	13.1%	15.2%	18.1%	21.4%	13.0%

資料：昭和60年～平成12年は国勢調査（総務省統計局）平成15年1月1日は神奈川県年齢別人口統計調査結果（神奈川県企画部統計課）

（注）分類不明を含めていないため、合計が一致しないケースもある。

高齢者のいる一般世帯については、平成7年と比較して、平成12年には、各市町ともに増加しており、増加率が20%を超えているのは、相模原市と城山町で、特に、相模原市は増加率が34.5%と他市町に比べ顕著に高くなっています。

また、一般世帯に占める高齢者のいる一般世帯の割合については、各市町とも増加しており、平成12年において30%を超えているのは、津久井町、相模湖町、藤野町で、特に、藤野町が38.7%と高くなっています。

【高齢者世帯の推移】

(単位：世帯)

区 分	一 般 世 帯		高 齢 者 の い る 一 般 世 帯			一般世帯に占める割合	
	平成7年	平成12年	平成7年	平成12年	増加率	平成7年	平成12年
相模原市	212,026	237,704	34,237	46,058	34.5%	16.1%	19.4%
城山町	7,200	7,661	1,475	1,872	26.9%	20.5%	24.4%
津久井町	9,022	9,479	2,491	2,938	17.9%	27.6%	31.0%
相模湖町	3,789	3,706	1,017	1,198	17.8%	26.8%	32.3%
藤野町	3,293	3,374	1,168	1,307	11.9%	35.5%	38.7%

資料：国勢調査（総務省統計局）

（注1）一般世帯とは、総世帯数から施設等の世帯数を引いた数である。

（注2）高齢者のいる一般世帯の人数は、一般世帯に含まれる人数である。

将来の人口

将来の人口については、相模原市は、平成32年以降、城山町は、平成17年をピークに減少傾向に転じ、津久井町、相模湖町、藤野町は、平成17年を待たずに減少傾向となることが予測されます。

また、将来の高齢化率については、平成32年において、津久井町、相模湖町は30%を、藤野町は40%を超え、急速に高くなることが予測されます。

【将来人口（65歳以上人口）と高齢化率】

（単位：人）

区	分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合計
2000年 (平成12年)	人口	592,332	23,036	30,345	10,896	11,312	667,921
	65歳以上人口	62,774	2,683	4,150	1,750	2,257	73,614
	高齢化率	10.6%	11.6%	13.7%	16.1%	20.0%	11.0%
2005年 (平成17年)	人口	626,994	23,197	30,048	10,553	11,053	701,845
	65歳以上人口	86,660	3,509	5,065	2,015	2,614	99,863
	高齢化率	13.8%	15.1%	16.9%	19.1%	23.6%	14.2%
2010年 (平成22年)	人口	644,750	23,307	29,568	10,080	10,725	718,430
	65歳以上人口	115,356	4,829	6,439	2,305	3,045	131,974
	高齢化率	17.9%	20.7%	21.8%	22.9%	28.4%	18.4%
2015年 (平成27年)	人口	657,440	23,298	28,834	9,475	10,319	729,366
	65歳以上人口	141,283	6,292	7,975	2,649	3,604	161,803
	高齢化率	21.5%	27.0%	27.7%	28.0%	34.9%	22.2%
2020年 (平成32年)	人口	663,087	23,003	27,820	8,813	9,869	732,592
	65歳以上人口	156,614	6,823	8,960	2,844	4,067	179,308
	高齢化率	23.6%	29.7%	32.2%	32.3%	41.2%	24.5%
2025年 (平成37年)	人口	661,086	22,313	26,445	8,134	9,358	727,336
	65歳以上人口	161,638	6,666	9,065	2,857	4,275	184,501
	高齢化率	24.5%	29.9%	34.3%	35.1%	45.7%	25.4%
2030年 (平成42年)	人口	653,781	21,290	24,719	7,396	8,761	715,947
	65歳以上人口	168,184	6,353	8,717	2,779	4,246	190,279
	高齢化率	25.7%	29.8%	35.3%	37.6%	48.5%	26.6%

（注1）相模原市の将来人口（相模原市企画部企画政策課）については、コーホート要因法

津久井郡4町の将来人口は、市町村の将来人口〔2000～2030年〕（財団法人日本統計協会発行）のコーホート変化率法

（注2）算出方法が異なるため、合計は参考値となる。

(5) 面積

本地域の総面積は、32,885ha となり、神奈川県内の総面積の約 13.6%を占めています。

土地利用について、本地域は、丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園、県立陣馬相模湖自然公園を抱え、神奈川県内の貴重な自然資源の保全地域であることから、自然的土地利用の割合が高く、森林の面積が、約 18,901ha で、1市4町の総面積の約 57%を占めています。さらに、相模湖、奥相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖、城山湖の5つの湖と相模川の上流域を有し、水源地域としての役割も担っていることから、水面、河川、水路の面積は、1,623ha で、約 5%を占めています。

一方、住宅地、工業用地などの宅地の面積は、約 4,995ha で、約 15%を占め、都市的土地利用の割合に比べ、自然的土地利用の割合が高いものとなっています。

都市計画区域については、相模原市及び城山町の全域が相模原都市計画区域として線引きがされ、本地域の 33.5%を占めています。

また、非線引きの都市計画区域として、津久井町の一部が津久井都市計画区域、相模湖町の全域及び藤野町の一部が相模湖都市計画区域として、本地域の 32.5%を占めています。

その他、津久井町の一部、藤野町の一部が、都市計画区域外として、本地域の 34.0%を占めています。

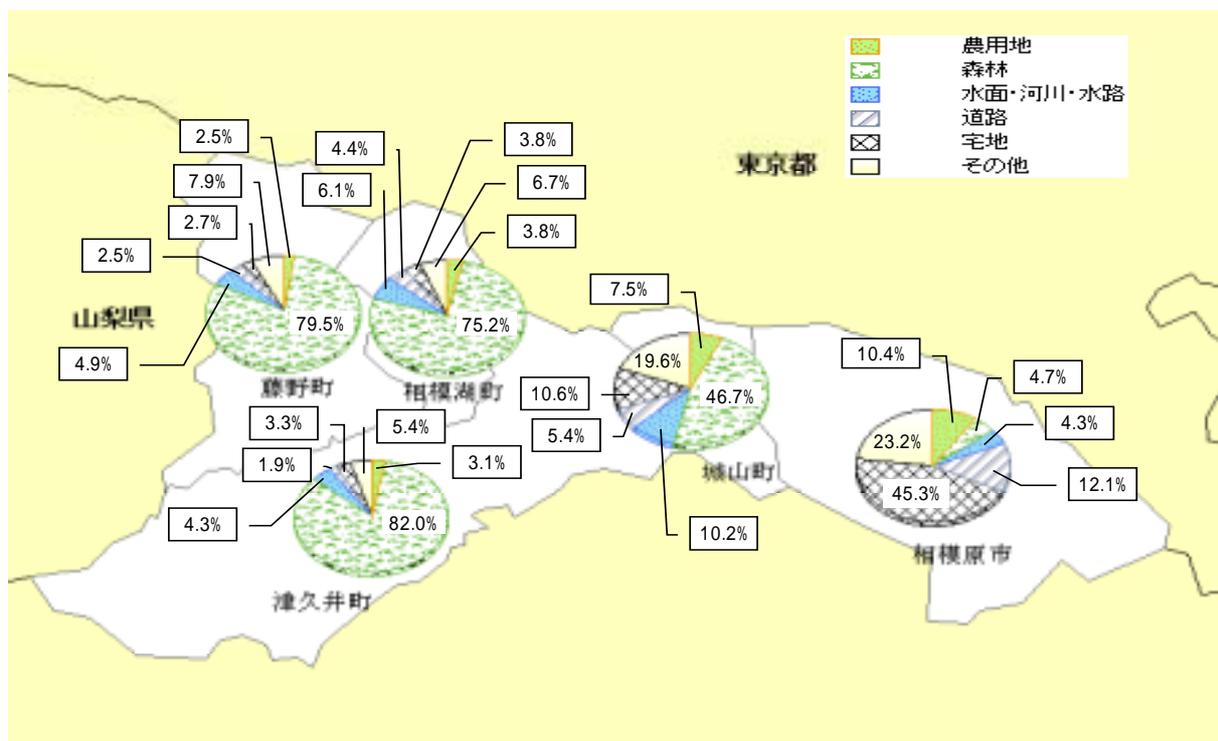
【総面積等】(平成 15 年 3 月)

(単位 : ha)

区 分	相模原市	城 山 町	津久井町	相模湖町	藤 野 町	合 計
総 面 積	9,041	1,990	12,204	3,159	6,491	32,885
	27.5%	6.1%	37.1%	9.6%	19.7%	100.0%
可住地面積	8,614	1,051	2,128	764	1,317	13,874
	26.2%	3.2%	6.5%	2.3%	4.0%	42.2%
人口集中地 区 面 積	6,680	280	170	-	-	7,130
	20.3%	0.9%	0.5%	-	-	21.7%
農地(経営 耕地)面積	548	75	113	46	43	825
	1.7%	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	2.5%
工業敷地 面 積	366	6	22	1	3	398
	1.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	1.2%

資料：神奈川県土地統計資料集(神奈川県企画部土地水資源対策課)

【目的別土地利用状況の割合】(平成 15 年 3 月)



(注) 上記の目的別土地利用状況については、各市町それぞれを 100%として表記した。

【目的別土地利用状況】(平成 15 年 3 月)

(単位: ha)

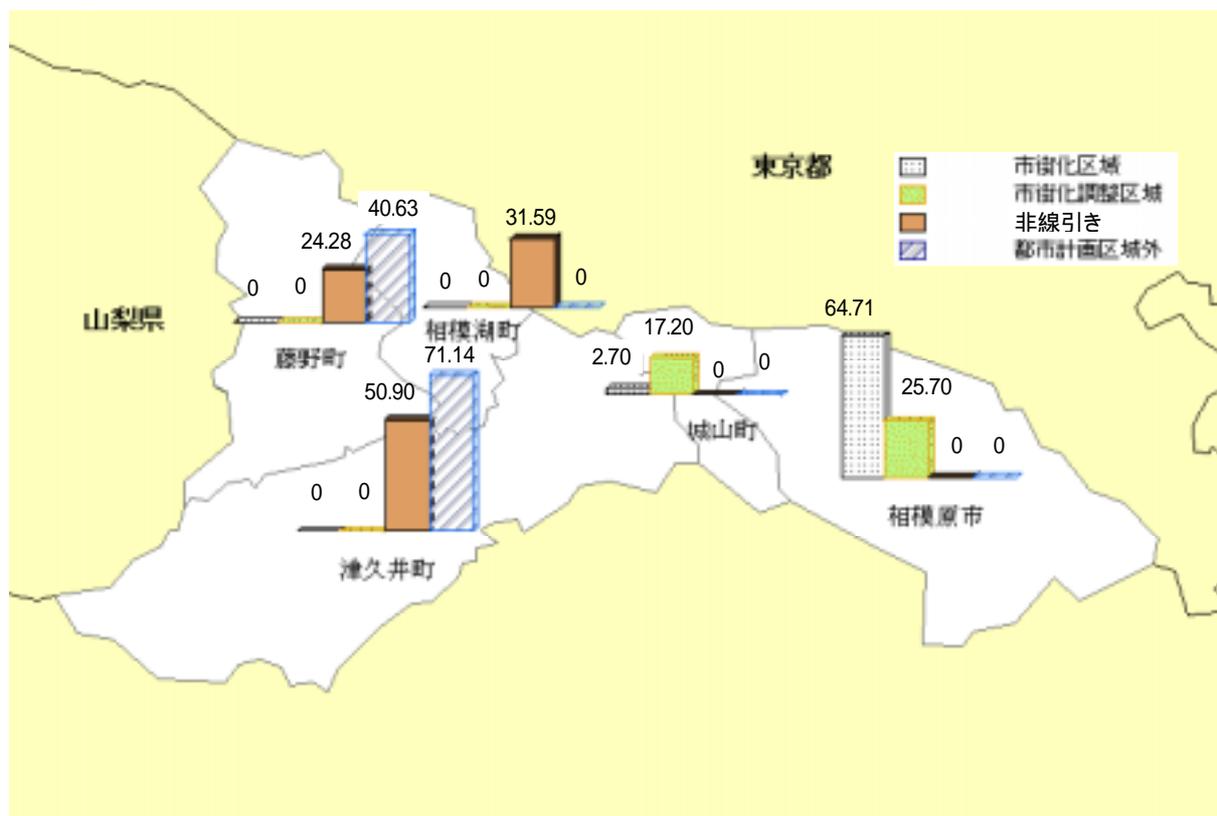
区分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合計
農用地	940	149	381	119	163	1,752
	2.9%	0.5%	1.2%	0.4%	0.5%	5.3%
森林	427	929	10,011	2,376	5,158	18,901
	1.3%	2.8%	30.4%	7.2%	15.7%	57.5%
水面・河川・水路	389	202	517	194	321	1,623
	1.2%	0.6%	1.6%	0.6%	1.0%	4.9%
道路	1,089	108	231	140	162	1,730
	3.3%	0.3%	0.7%	0.4%	0.5%	5.2%
宅地	4,095	211	407	119	177	5,009
	12.4%	0.6%	1.2%	0.4%	0.5%	15.2%
その他	2,101	391	657	211	510	3,870
	6.4%	1.2%	2.0%	0.6%	1.6%	11.8%
合計	9,041	1,990	12,204	3,159	6,491	32,885
	27.5%	6.1%	37.1%	9.6%	19.7%	100.0%

資料: 神奈川県土地統計資料集(神奈川県企画部土地水資源対策課)

(注) 上記の目的別土地利用状況については、1市4町全体を 100%として表記した。

【都市計画区域等の面積】(平成 15 年 3 月)

(単位：k㎡)



【都市計画区域等の面積】(平成 15 年 3 月)

(単位：k㎡)

区分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合計
市街化区域	64.71	2.70	-	-	-	67.41
	19.7%	0.8%	-	-	-	20.5%
市街化調整区域	25.70	17.20	-	-	-	42.90
	7.8%	5.2%	-	-	-	13.0%
非線引き	-	-	50.90	31.59	24.28	106.77
	-	-	15.5%	9.6%	7.4%	32.5%
都市計画区域外	-	-	71.14	-	40.63	111.77
	-	-	21.6%	-	12.4%	34.0%
合計	90.41	19.90	122.04	31.59	64.91	328.85
	27.5%	6.1%	37.1%	9.6%	19.7%	100.0%

資料：神奈川県土地統計資料集（神奈川県企画部土地水資源対策課）

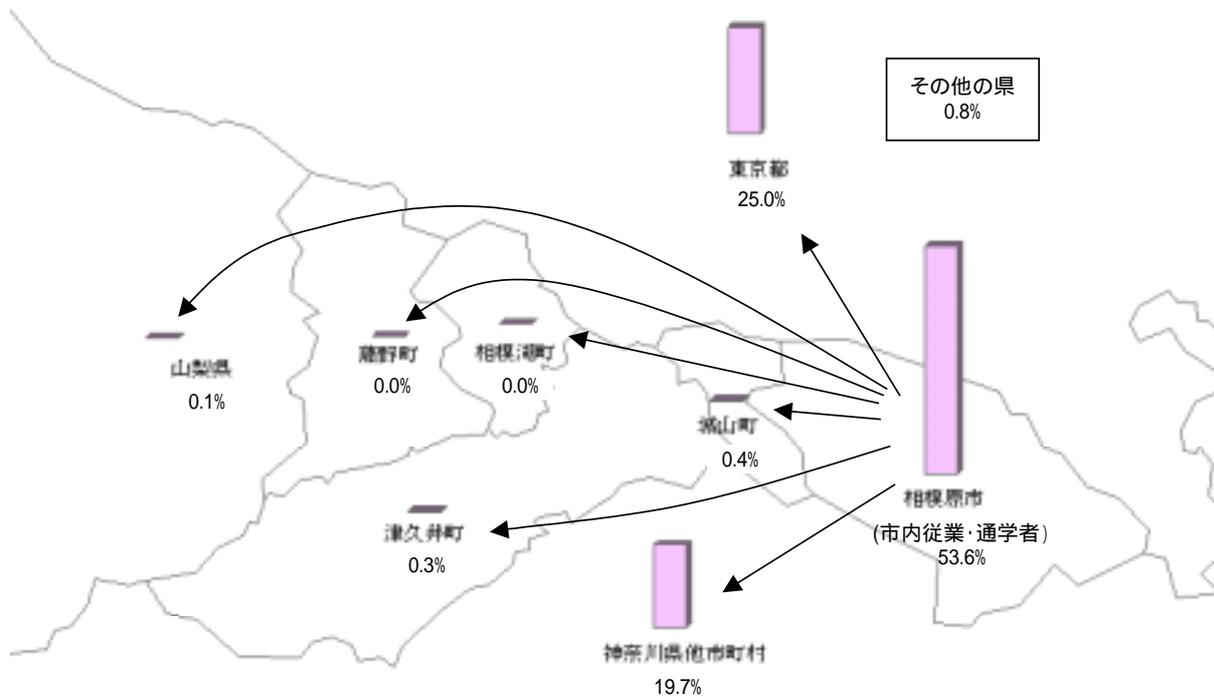
(6) 日常生活圏の状況

1市4町の結びつきを国勢調査の通勤・通学率でみると、平成12年においては、自市町内で通勤・通学率が50%を超えているのは、相模原市(53.6%)のみとなっています。

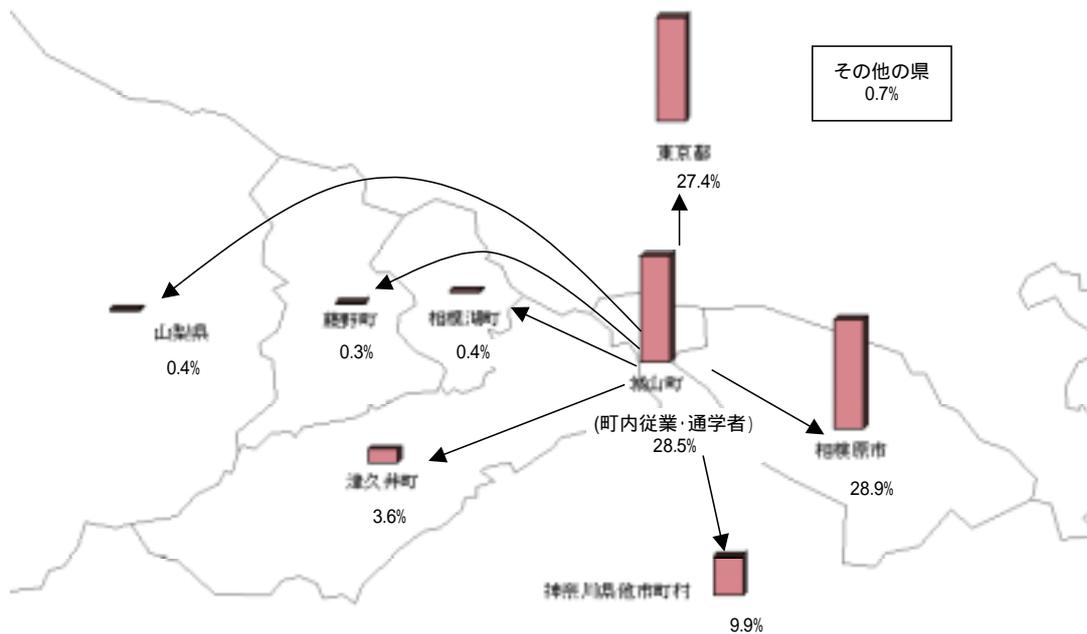
津久井郡内から相模原市への通勤・通学率のみをみると、城山町、津久井町は20%を超えて高くなっています。

平成7年からの推移でみると、各市町の自市町内通勤・通学率は、相模原市、城山町、藤野町は増加しており、津久井町、相模湖町は減少しています。

【通勤通学の動向】

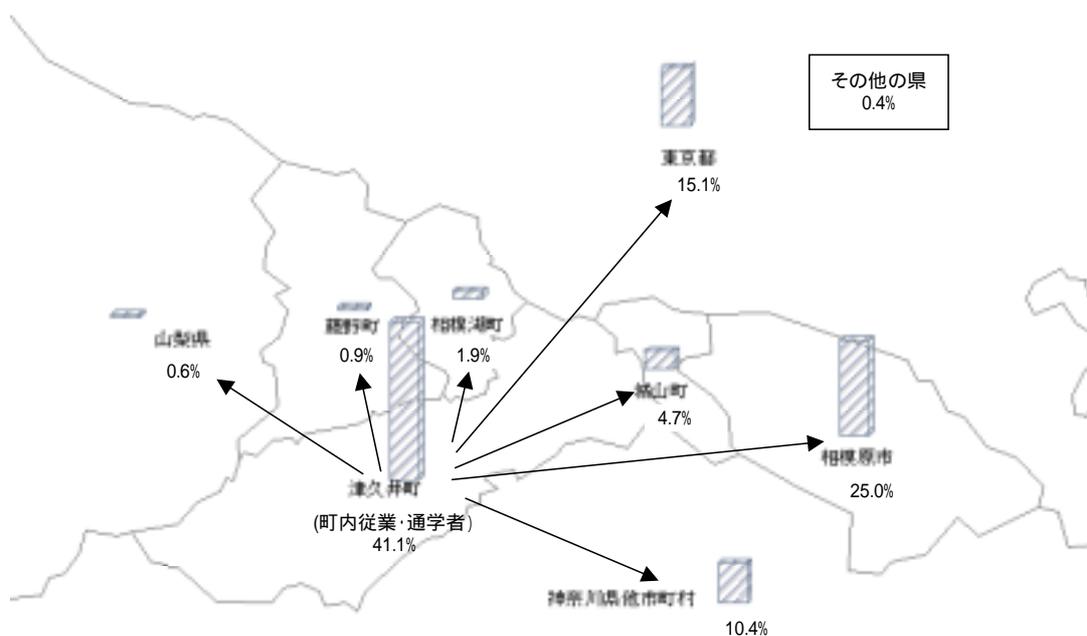


相模原市(15歳以上就業者・通学者(346,851人)の従業地・通学地先別割合)
資料:国勢調査〔平成12年〕(総務省統計局)



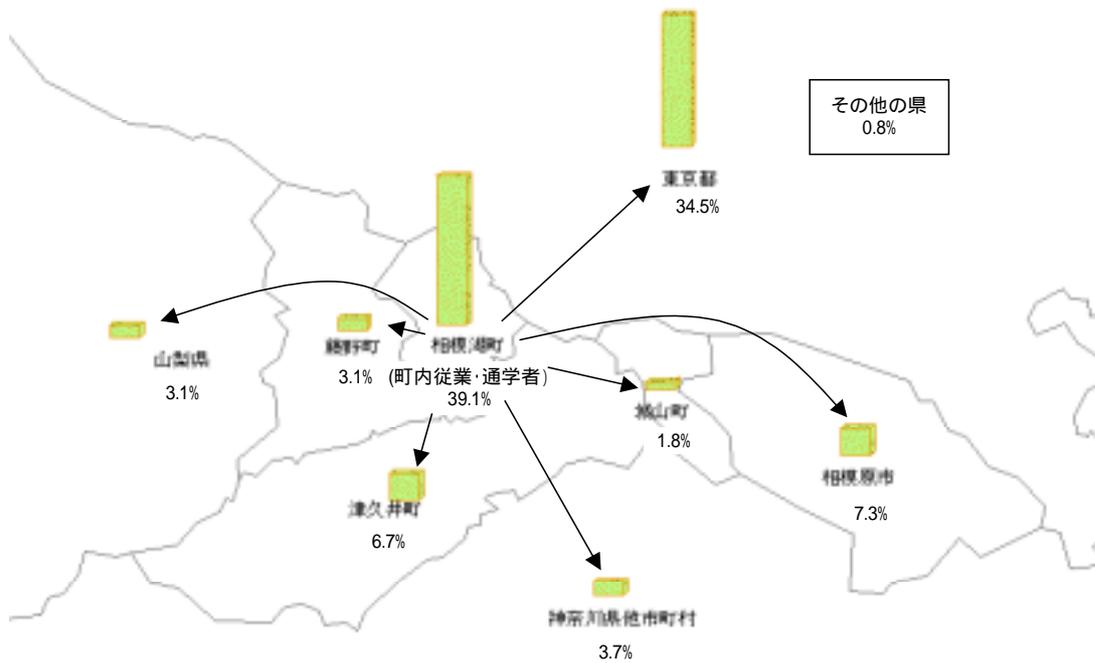
城山町（15歳以上就業者・通学者（13,662人）の従業地・通学地先別割合）
資料：国勢調査〔平成12年〕（総務省統計局）

津久井町（15歳以上就業者・通学者（17,515人）の従業地・通学地先別割合）



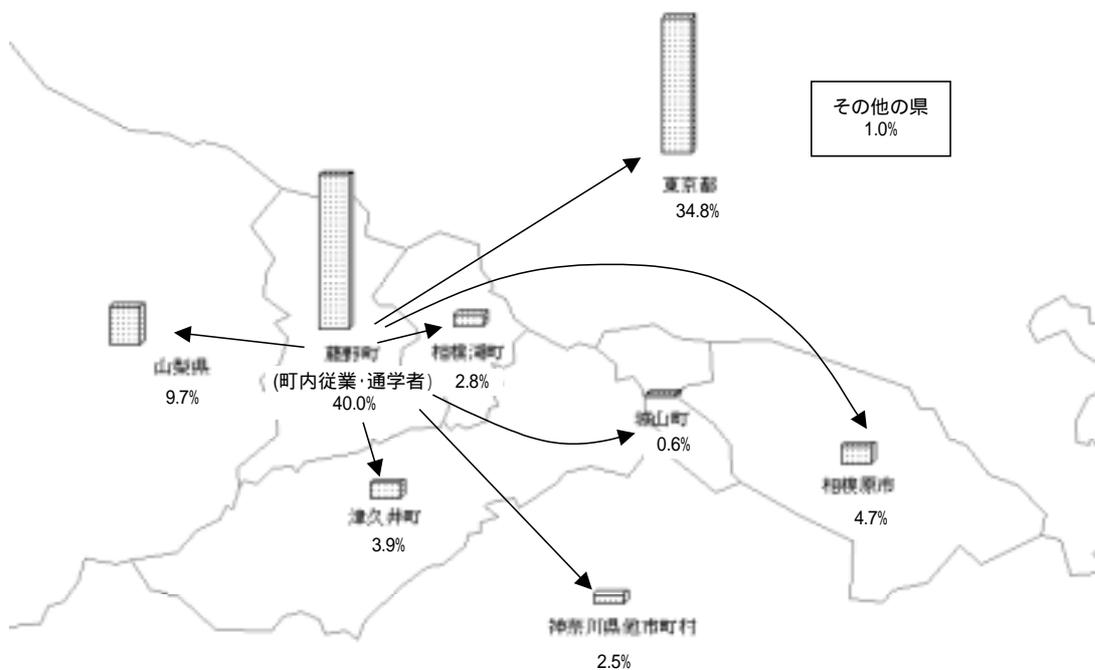
資料：国勢調査〔平成12年〕（総務省統計局）

相模湖町（15歳以上就業者・通学者（6,235人）の従業地・通学地先別割合）



資料：国勢調査〔平成12年〕(総務省統計局)

藤野町（15歳以上就業者・通学者（6,152人）の従業地・通学地先別割合）



資料：国勢調査〔平成12年〕(総務省統計局)

【利用交通手段の状況】

(単位：人)

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町
自 宅 外 計	323,919	12,590	15,666	5,548	5,430
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
利用交通手段が1種類	253,041	8,798	13,076	4,043	3,902
	78.1%	69.9%	83.5%	72.9%	71.9%
徒 歩 だ け	21,220	751	996	589	395
	6.6%	6.0%	6.4%	10.6%	7.3%
鉄 道 ・ 電 車	71,372	215	65	574	830
	22.0%	1.7%	0.4%	10.3%	15.3%
乗 合 バ ス	4,624	423	977	177	53
	1.4%	3.4%	6.2%	3.2%	1.0%
勤め先・学校のバス	1,762	53	198	13	80
	0.5%	0.4%	1.3%	0.2%	1.5%
自 家 用 車	90,321	5,567	9,681	2,424	2,363
	27.9%	44.2%	61.8%	43.7%	43.5%
ハイヤー・タクシー	105	-	1	1	-
	0.0%	-	0.0%	0.0%	-
オ ー ト バ イ	9,218	418	449	117	97
	2.8%	3.3%	2.9%	2.1%	1.8%
自 転 車	51,362	1,255	548	76	25
	15.9%	10.0%	3.5%	1.4%	0.5%
そ の 他	3,057	116	161	72	59
	0.9%	0.9%	1.0%	1.3%	1.1%
利用交通手段が2種類	58,173	3,188	2,135	1,205	1,197
	18.0%	25.3%	13.6%	21.7%	22.0%
鉄 道 ・ 電 車 及 び 乗 合 バ ス	21,823	1,781	1,051	710	418
	6.7%	14.1%	6.7%	12.8%	7.7%
鉄 道 ・ 電 車 及 び 勤め先・学校のバス	2,741	16	4	32	32
	0.8%	0.1%	0.0%	0.6%	0.6%
鉄 道 ・ 電 車 及 び 自 家 用 車	3,608	402	597	287	479
	1.1%	3.2%	3.8%	5.2%	8.8%
鉄 道 ・ 電 車 及 び オ ー ト バ イ	2,598	250	149	86	167
	0.8%	2.0%	1.0%	1.6%	3.1%
鉄 道 ・ 電 車 及 び 自 転 車	21,627	468	14	30	39
	6.7%	3.7%	0.1%	0.5%	0.7%
そ の 他	5,776	271	320	60	62
	1.8%	2.2%	2.0%	1.1%	1.1%
利用交通手段が3種類 以 上	7,776	466	362	233	234
	2.4%	3.7%	2.3%	4.2%	4.3%
自 宅 計	22,932	1,072	1,849	687	722
合 計	346,851	13,662	17,515	6,235	6,152

資料：国勢調査〔平成12年〕（総務省統計局）

（注）「自宅外計」欄には、利用交通手段「不詳」を含む。